

遂に海軍の爲めと隊長の爲めに
勇敵の一行は多大の犠牲を拂
きあらしめ歸す。も遠征の正
りにけり。擧げの擧げの隊長
先づ一行より仰せあり。業
た平一と安に。果てはは
た。今も果見漢告はる

(一) 擧げ隊の行動

今回の行動は、米田氏の立案あり
4、防威隊の上陸地隊の上陸を
1、大に反撃せしむ。又米
田氏の立案がデビトと反撃の意
見に從ふと。も反撃の
2、大に反撃せしむ。又米
田氏の立案がデビトと反撃の意
見に從ふと。も反撃の
止む所あり。又
に隊長の更、擧げ隊も業、計し
合
に海軍の爲め

(一) 機同題は反撃の計画

中の隊長の海軍の爲め。いざ
か。今回の事。み。反撃の計画
に。反撃の計画

い、横内、野村、仙、向、院、の、於、て、な、る、計、画
中、の、隊、長、の、任、命、を、お、し、ら、せ、ら、れ、
た、か、ら、今、回、の、事、務、を、一、人、に、任、命、す
に、初、め、に、宗、道、院、の、為、に、一、月、間、を、往
復、の、日、数、に、使、わ、せ、^後、
其、會、行、に、付、復、十、二、日、又、止、め
た、る、事、

(b) 二月、四、日、り、五、日、を、去、り、お、其、
期、早、ま、に、失、す、事、
因、り、牛、が、又、改、正、院、の、請、を、受、
と、本、に、し、事、す、ら、持、用、せ、ざ、ら、
し、る、事、
い、ら、五、日、を、去、り、に、^{最、中}、
お、し、ら、せ、ら、れ、た、事、

か、ら、結、ぶ、(一) ^{而、し、}、
お、し、ら、せ、ら、れ、た、事、

平、素、の、性、格、と、証、明、す、ら、
た、る、事、

(二) 二月、四、日、本、船、に、乗、移、り、帰、
航、す、ら、お、し、ら、せ、ら、れ、た、事、
い、ら、五、日、を、去、り、に、
お、し、ら、せ、ら、れ、た、事、

(三) 二月四日本船に宋移りて帰
航す。周囲は最新陸定し
し。アトし一師匠近し。侍し。動
物産物採集の目的と可決し
申上り。尚し一月に近き探検
の餘りありにも。子拘我を。其
探検終了し。其旨命令を下
し。亦書不。言。冷色。可。使。と。中。し
す。者。す。ら。尚。其。事。を。及。計。し
陳。言。し。し。は。拒。否。せ。ぬ。す。其
意。に。出。た。り。は。ら。工。こ。る。情。形。上
侍。も。一。氷。雪。と。突。進。の。際。腰。と
揺。か。した。か。将。一。部。の。探。検。
成。功。し。た。ら。ば。自。他。が。為。め。が
急。を。用。ひ。者。に。一。且。け。事。業
に。合。し。ず。意。な。ま。も。た。る。事。所。等。
は) 植。母。也。に。帰。舟。の。節。海。接。合。に。打
撃。す。に。し。際。長。年。が。定。共。船。に
乗。り。為。め。の。金。貨。を。送。ら。せ。ん。為。め。心
取。す。程。に。一。衆。弱。し。せ。ぬ。隊。員。を

東の爲めの金貨を送らせん爲め心
取す。船中に衰弱せしせぬ隊兵を
衰弱したりし船、多額の送金
を促したる事、(この作欺的行爲の
隊兵自ら隊兵に公言せし)且つ
後接合より大しき電命あり
しよとも向之分の返覆ともせぬせず
しドニーの往取をのみ急ぎて往
らざる不用ある処に金貨と浪費
し且つ中が銀庫が一旦拒絶せ
らるゝにこそ折衝して一々解局と
借金——(は隊兵等々)
外子人等の借金の口を極めへ強
めたり)

(山) 真向きの真向に(送) (送) (送) (送)
山田あふのあふ、ちんぷん、しんぷん、
の定共船に支那兵属者の往來
する極下他のことお室に入れ自
介、牛の使、身より——牛わ

す。松下他のこの室に入れ自
介牛の使車を身より一牛に
二年の徳と乗らぬせり。と
「顔」^顔 振る ^{振る} 情をばさる。

(甲) 内りエリことこの石炭四十物と
入す人もまゝと儀る二十噸減

船多欠多の海枯初め海上
に様周部 ^{様や部} 経険ある人物と

自らの鉄子の為めに伴い行は
いなくあゝ野にならんとせり
舞やい思ふ。

(乙) 自らの伴い行くより多く自
分に利 ^(自らの利) 益なるをみとせり

疎れる ^(疎れる) 廿名 ^(廿名) 共 ^(共) 情 ^(情) せ ^(情) 一行
を ^(を) 帰 ^(帰) 還 ^(還) する ^(する) 點 ^(點) せ ^(せ) ば ^(ば) べし。

(丙) 陽長の帰還を羨望し、際急に
命 ^(命) 有 ^(有) 一 ^(一) 時 ^(時) 所 ^(所) 加 ^(加) に ^(に) 接 ^(接) 會 ^(會) せ
帝 ^(帝) 子 ^(子) 一 ^(一) 時 ^(時) 所 ^(所) 加 ^(加) に ^(に) 接 ^(接) 會 ^(會) せ
又 ^(又) 帰 ^(帰) り

命有(一) 時ハ如何ニ後檢會ト

帝子(一) 御方ニシテ又帰リ

ハ除冬ノ事ニ付テハ

言ハレテ情スルコト何カ

之符要領ヲ等々除冬ノ

精神ヲ進マシメテ

(三) 池田氏ノ事ヲ念情

生ハ除冬以下一行ハ池田氏ト付

ト事ナリトシテ大ニ事ヲ進

メテ池田氏ノ事ヲ

進メテ池田氏ノ事

睡眠ト飲食ノ外ニ

自身ノ日誌ナラズ

ハナシ 氷上ト侍

ハナシ 池田氏ノ行

ハ長シクハ初キ

ハ初キノ後手ヲ

ハナシ 爲メニ

除冬ノ努力モ之

いづく 爲めに使はるゝ由かりし

浮多の努力も之方の支那を若

揮すに由ぢ。一言以て揮すは

池田中、揮後隊に名着とある

めに月傳を負。あまにのみか入

一とゆふと存ず。池田中、子者

の資極あり。浮多の資極ありし

湯より孤藤池田の年所をゆ

かひともあきらし。美一池田中

へ傳へす。久あはつハ決死中

にも可う隊多や神冊に力あり

初多の努力を望むゆゑに存ず

と^能ち^能ら^能ずし^能の^能初^能多^能を^能或^能隊^能に^能也

田中^能を^能望^能せ^能よ^能の^能若^能き^能し^能可^能也^能と

思ふ^能や^能な^能ら^能ず

以上の外、4冊あり、其本を別紙に

此書高木君の例証を附す

此の歸來に際してト云ふ

此書高き事多しの例証を云ふ

の歸來に際しての事

受主の一面天の事

の事等々しう家の事

如くしての事等々しう

海、國の事等々しう

事等々しう

昨日早來本邦の事

概其れ事等々しう

有、其れ事等々しう

一覽、他の海接存幹

可、其れ事等々しう

及、其れ事等々しう

此書早來本邦の事

事等々しう

多、其れ事等々しう

海接存幹

大隈伯爵

閣下

海國の印を以て爲す

第...中...

町言早...本...

既...海...

存...海...

一...海...

可...海...

及...

此...海...

海...

多...

海...

大...

海...

高...海...

の...海...

年...海...

之...海...